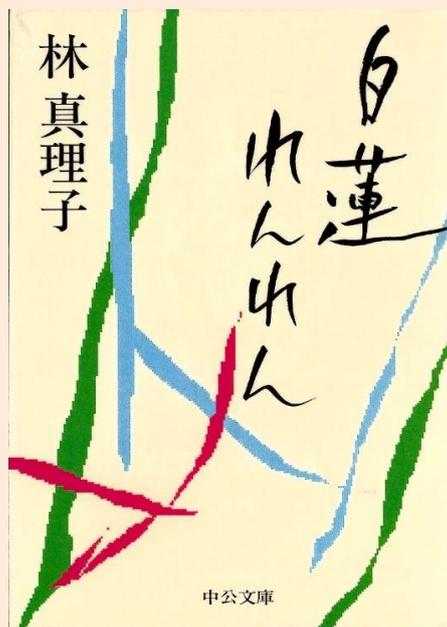


『白蓮れんれん』 中央公論新社 林 真理子／著

柳原伯爵家に生まれた燐子（あきこ）は、家のために九州の炭鉱王・伊藤伝右衛門に嫁ぐ。望まない結婚により苦悩に満ちた生活を送る中、次第に和歌を詠むようになり、知り合った年下のジャーナリスト・宮崎龍介との恋にのめり込んでいく。



美しき歌人・柳原白蓮が若い恋人と駆け落ちした「白蓮事件」は、大正の世を騒然とさせた。著者は遺族から提供された700通を超える往復書簡を基に、2人の心の機微や結び付きの強さを余すところなく書き込んだ。要所に挿し込まれた和歌や手紙からは、明治・大正の時代背景や文化を感じ取ることができる。